

水草研究会第5回全国集会報告

1983年8月6日、関東の水郷地帯、霞ヶ浦湖畔の銚子屋旅館を借りきって、第5回全国集会在開催された。北は山形県、西は香川、広島県から、45名(非会員3名を含む)が参加した。

下記の演者・テーマにより研究発表があり、熱心な討論がおこなわれた。

1. 近年における印旛沼の水生植物の変化
…………… 笠井 貞夫
2. 近年における霞ヶ浦の水生植物の変化
…………… 桜井 善雄
3. 霞ヶ浦・高浜入の物質収支におけるヒシ群落の役割
…………… 土谷 岳令
4. 水辺のカヤツリグサ類の観察 I. アオガヤツリとその仲間
…………… 野口 達也
5. ホテイアオイの成長解析—いくつかの培養液濃度における生理的・形態的变化について—
…………… 野原 精一
6. 熱帯太平洋における海藻藻場について
…………… 相生 啓子
7. 水草を土壤中に混合する事による汚水の脱窒工法について
…………… 新見 正
8. 水草の細胞間隙について …………… 原田 市太郎

総会終了後、旅館の大広間で、盛り沢山な川魚料理に舌鼓をうちながら懇親会がおこなわれた。今集會では、出席者全員が同宿であったため、研究発表の会場—懇親会会場—宿舎の移動に時間をとられることがなく、会終了後も夜遅くまで交流が続いた。

翌7日、35名が参加してエクスカージョンがおこなわれた。午前8時に宿舎を出発し、はじめに桜井善雄氏の案内により霞ヶ浦東岸、北浦・鰐川で多数の水草を観察した。次に行った佐原市営水生植物園では、園内の水草について福井久治郎氏から説明を受け、隣接する大利根博物館を自由見学した。昼食後印旛沼へむかい、甚兵衛大橋、西部調整池の出口付近を観察したが、

霞ヶ浦と異なり沈水植物はほとんど見られず、水生植物は貧弱であった。午後3時40分、京成佐倉駅・国鉄佐倉駅で解散し、炎天下のエクスカージョンを終えた。

最後に紙上を借りて、全国集會に参加して下さった皆様、エクスカージョンの案内をして下さった桜井・福井両氏にお礼申し上げるとともに、いろいろ不備のあったことをお詫び申しあげたい。

総会審議事項

1. 1982年度の事業報告・会計報告は、会報13号でおこなうことが承認された。
2. 1984年度より年会費を500円値上げして2500円にすることが可決された。
3. 会費未納者に対し、1年滞納で催告、2年以上の場合は会報を送付しないことが再確認された。
4. 本年9月より事務局を京都大学から神戸大学教養部生物学教室内に移転することが承認された。
5. 次回の全国集會は、信州大学の桜井善雄氏のお世話により、1984年夏に長野県戸隠高原において1泊2日で開催される予定となった。
6. 英語での名称、略称およびシンボルマークを決めようとの発案があり、選定の方法等について役員会で検討することが承認された。
7. 9月にオランダで開催される International Symposium on Aquatic Macrophytes に水草研究会より Greeting Message を出そうとの発案があり、文面等については会長・事務局に一任することが承認された。(大滝末男・林 浩二)

